

開催地名：兵庫県加東市	
開催日時	令和3年11月15日（日） 13:30～15:00
開催場所	市庁舎5階第1委員会室
語り部	鈴木秀光 （宮城県気仙沼市）
参加者	市議会議員、議会事務局職員 約20名
開催経緯	当市は、市内西部を縦断する加古川の増水による水害が例年発生しているが、近年、地震による大規模な被害がないことから、特に地域による災害対応意識の差が大きい。市や議会においてもマニュアルを整備しているが、今後大規模災害が発生した場合においては、大きな混乱が予想される。
内容	<p>(1) 震災被害の背景と津波の状況</p> <p>気仙沼市は遠洋漁業が盛んな、風光明媚な観光地である。リアス式海岸沿いの街であるため昔から津波による被害もあった。震災前の気仙沼市は、人口74,247人、26,600世帯だった。市内最大震度は6弱、その他の震度計のあるところで5強を観測した。</p> <p>宮城県沖地震は30年以内に発生する確率が99パーセントと言われておりたが、実際の津波到達範囲はそれを大幅に超え、それに対応したハザードマップを作成しているもので、想定外のことばかりだった。浸水面積は市全体の5.6パーセント。リアス海岸の地形、かつ沿岸部に町を形成していたため、事業所数で見ると約8割。働いている人にとっては、83.5パーセントが被災した。また市の地盤も約70センチ沈下し、市全体が大きなダメージを負った。</p> <p>大型船が陸上に打ち上げられ、約3千隻の漁船が流出もしくは損壊。海沿いにあった工業高校では、4階まで津波が達した。3階には津波に押し流された軽自動車がかひっくり返って残されていた。高台に向かう車、高台から一旦自宅や会社に戻ろうとする車が交錯し、車ごと流された事例も多く発生した。</p> <p>(2) 東日本大震災を踏まえた教訓</p> <p>津波で各地の道路が断絶されたことにより、一次対応の遅れが目立った。市役所への唯一のアクセス路も浸水し、市役所自体が孤立。調査救助にも迎えなかった。複数の移動路を整備しておくべきだった。</p> <p>電気の復旧は2か月後だった。さらに水道の復旧は3ヶ月後。懐中電灯や、ろうそくの灯で過ごし、ずっと給水車からの水汲み作業を続けていた。物資の備蓄、協定、受援についても防災計画通りにはいかなかった。自衛隊</p>

	<p>には救助以外にも兵站という形で物資の受援、支給にも力を貸していただき、システム化できた。体育館や公民館は物資ターミナルとしては代用できないので、予め倉庫業組合やトラック組合との協力、協定締結をすべきであると考えている。気仙沼市では、搬入搬出の分けや効率的な運搬、作業スペースの確保など網羅した物資集積配送基地が、2021年7月に完成した。</p> <p>(3) 議会として一市民としてできること</p> <p>議会では当時、廊下などの空きスペースにみんなで集まって議案を承認し、予算を成立してくださった。また、復興計画を可決し、災対要領を作成し、それが機能するかの訓練を重ねられていた。何よりありがたかったのは被災者への説明だった。どんなに説明書を配っても伝わりづらい。住民の方から行政への不満、非難があった際にも住民の取りまとめや間に入っていただけで心強かった。</p> <p>平成23年の3月10日に戻れたらどうしますか。というような質問を受けたこともあるが、今日が歴史的な大災害の前日かもしれない。ご自身、ご家族、大切な方を守るため、あなたが議員として一市民としてできることがある。心に思ったことを何か取り組んでいただきたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
開催地より	<p>「今日が歴史的な大災害の前日かもしれない」という言葉が胸に残った。まずは個人の備えを万全にしなければ、有事の際に議会としての役目は果たせないことを認識した。復旧に向けて立ち回れるよう、今からできることを行動に落とし込んでいきたい。</p>